

戦中不日
友好中日

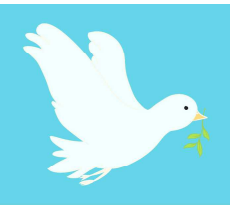
日本中国友好協会



苦小牧支部ニュース

発行所
日本中国友好協会
苦小牧支部
苦小牧市有珠の沢町
7-6-19伊藤方
☎0144(72)5348

2016年9月5日
No. 42



みんなで戦争と平和について考えてみました



全員で憲法前文を朗読

8月10日(水)に苦小牧市市民活動センターギャラリーで開催された「平和のつどい」(主催 新日本婦人の会苦小牧支部)に協賛団体として日中友好協会苦小牧支部が初参加しました。開催にあたっての支部担当として開催ポスターの作製と駅・公民館等でこれらの掲示、参加者全員での憲法前文群読のための全文を記した大きな掲示物(2.5m×3m)作成のほか、



2016/08/10 11:41

①支部会員の池野京子さんの戦争体験トーク、②平和のための戦争展(写真パネル 本等の展示) ③DVD「証言—侵略戦争—」(日中友好協会制作)の上映や、さらに来訪者との交流会「平和おしゃべりカフェ」に参加しました。

戦争の酷さ・平和の尊さを伝えました 平和のつどいに初参加!



証言を聞く参加者のみなさん

2016/08/10 11:24

池野さんの戦争体験トークに当たって、支部では事前に6ページの資料を準備作成し、参加者に配布しました。池野さんは、1945年8月、中国遼寧省敦化市で起きた集団自決(青酸カリを飲まされた)に巻き込まれ、奇跡的に生き延びたこと、帰国までの間に発疹チフスに感染し病床に伏したため、成人になっても体に残った数カ所のひどい床ずれに苦しんだこと、深い大きなトイレで宙ぶらりんになったこと、また引揚時に栄養失調状態に加えて、足に障害が発生したが、現地に残される恐怖から「リハビリ」に励み必死に歩きとおしたことで、橋が破壊された川での渡渉時のことなど、何度か死と背中合わせの体験を、時には体を震わせな



2016/08/10 11:11

自らの戦争体験を話す池野さん

平和のための戦争展 日本中国友好協会苦小牧支部

ながらお話しされました。戦争が引き起こす、平時では考えられない悲劇が身の回りで起きること、それが戦争の実相であること、そして、平和の大切さ、戦争は決して起こしてはならないことを強く訴えられました。また、池野さんは、聞いてくれた人たちに、得意の手芸で自作の皮製のストラップをたくさん作ってきてくれて配布してくれました。(「きつとこの作品を見ると、今回の「平和のつどい」で聞いたお話を思い出してくれることでしょう。聞いた人たちに多くの共感を与える真摯な表現です。ありがとうございました。池野さんありがとうございました、そしてお疲れ様でした」河野談)

「平和のための戦争展」では戦争の実相を伝えるパネル写真のほか、新聞記事、蔦保さんが以前から収集していた数多くの資料を展示しました。



戦争の絵本や写真集



満州国の旗など侵略を伝えるレプリカの展示



日本の侵略戦争の歴史年表と侵略戦争拡大図



戦争の実相を伝える
パネル写真

DVDの3部作上映では、最初は何気なく見ていた人達が次第に引き込まれ、食い入るように視聴していました。

日本が行った加害を語る人たち、映像の上映は、時には目を背けたくなるものもありましたが、皆さんきつと印象深いものなつたと思います。途中から見ていた人もあつたのですが、

3部作全体を再び見たいという声もありました。



中国での侵略戦争を証言する元兵士のDVDの上映

会場には地元のマスコミ関係者や、例年に多く多くの参加者で、80名を超える市民が訪れました。戦後71年目の年を迎え、あらためて平和について考える集いになりました。(河野 記)

九・一八を忘れない

中国でも

「九・一八を忘れない」は大切な事

昨年の九月十八日に何があつたか憶えていますか。戦争法(安全保障関連法案)が国会で強行採決された日です。あれからまもなく一年を迎えます。スーダに派遣されている自衛隊に「駆けつけ警護・緊急事態」ということで銃の使用が行われる可能性がります。九・一八を忘れず、廃案のための活動を続けるのが大切です。

柳条湖事件(日本軍による列車爆破事件で、中国がやったようにし、中国での侵略戦争拡大のきっかけとした)が、1936年9月18日に、中国東北部の奉天(現瀋陽)近くの柳条湖で起きました。中国では、日本軍国主義

中国旅行：たくさんの学びをしてみました

8月26日から中国東北部・旧満州へ行った「日中友好協会北海道連合会」の一行が9月1日に無事に元気に帰国しました。

特に、今回のツアーには、参加者22名のうち、苦小牧支部から9名もの参加があり、事前に支部学習会を行って、見学地の内容を学んでの中国への旅でした。帰国直後の伊藤さんと河野さんに聞きました。

◆伊藤支部長の話

各見学施設・記念館の敷地と建物の大きさに驚いた。展示物も多く、系列的にきちんと展示されていた。短時間では見きれなかった。リアルな展示で正直視するのが思わずためらい

◆心に刻んでおくことの大切さ

が中国侵略のきっかけをつくった恥ずべき事として「九・一八を忘れない」と語り継がれています。今回の中国旅行で見学地になった瀋陽の9・18歴史博物館はこの事実を忘れないためにつくられた施設です。安倍自公政権が「9月18日に戦争法を強行可決」したことは、日中友好、不戦、平和外交につながるものではありません。

そうになる人もいた。参加したみなさんは、行って良かったと話していた。

◆河野事務局長の話

本で見ると、実際に現地へ行って見るの違いに、言葉が失った。施設の展示方法が非常に良く出来ていた。以前は、これでもかと残酷場面ばかりの展示だったが、今は、なぜこのような事実が起きたかを歴史的にその経過を展示し、二度と戦争を起こしてはならないという様に分かり易い展示になっていた。

チチハルの毒ガス遺棄爆発事故については、現場を見たり、研究機関の方の話聞くことが出来た。



9.18 歴史博物館で(瀋陽) 2016/08/31

今回の旅行で見えてきたこと、学んだことを、次号から何回かに分けて紹介していきますと思います。

8.15反戦平和集会 日本の安全について

考えました

市内の労働組合、市民団体や宗教者などが参加する「思想と信条の自由を守る苦小牧市民会議」は、71回目を迎えた敗戦の日の8月15日、反戦平和集会を市民会館で開きました。



8.15 苦小牧 反戦平和集会
日本の安全は どう 守れますか
講師 山本 政俊 先生

講師は、足寄高校の山本正俊先生で、「日本の安全はどう守れますか」という演題で講演しました。

先生は、日本とアジア諸国の間には、戦前と戦後をめぐり大きな認識の差が存在すること、沖縄と本土との間にも存在することを取り上げ、「日本の安全」を脅かすとされる脅威が、どういう構造のもとで生み出されてきたのか、問題の所在を明らかにされました。また、南極の領有をめぐる、大国同士がもめていた国際会議の席上で、学徒出陣をしている間に、広島に

落とされた原爆で家族すべてを失った日本の外交官「本田ひろし」が「憲法9条」を各国代表に読ませ、領有権を凍結した上で南極を「人類の共有財産」と規定する「南極条約」が生み出されたエピソードを紹介されました。

安倍内閣は、過去最大となる5兆1685億円もの防衛費を新年度予算に計上しています。安全を軍事力で守る戦前回帰をめざすのか、それとも平和を拓く力を持つ「第9条」の可能性を生かす道を歩むのか、一人一人に判断を未来からゆだねられていると、強く訴えられました。



講演を聞く参加者のみなさん

中国語講座

山口 晃

中国語に親しんでいますか。発音が難しいですよ。がんばりましょう。

No. 21

今回は

nín xiān qǐng
お先にどうぞ “您 先 请”

“您 先 请”は、相手に「お先にどうぞ」と、ある行為を「お先にどうぞ」とうながす、すすめる時などに使います。

ニイ シェン シン
你 您 先 请
お先にどうぞ (您是、丁寧語です)

ニイ ガン ジン ダ
你 赶 緊 的、
早く先にやって!

☆ こんな言い方も

ニイ シェン ライ
你 先 来
お先にどうぞ

ニイ シェン ゴウ バ
你 先 走 吧
先に行っていていいよ

ニイ シェン シアン
你 先 上

ブヤ ヨン ドオン ウォ ラ
不 用 等 我 了
私を待たなくていいから



あの日を忘れない

8月9日、「ヒロシマ、ナガサキ、フクシマを忘れない」として、朗読会が行われました。

市民有志による原爆詩朗読、苫小牧南高演劇部によるフクシマの子どもの作文の朗読、苫小牧東高校演劇部のオバマ大統領の広島平和公園でのスピーチの群読などが発表されました。60名程の市民が一緒に参加しながら平和の大切さを誓い合ったひとときでした。



原爆詩を朗読する市民の皆さん

脱原発・自然エネルギーをすすめる会 講演会の案内

講師 小野有五さん

(北星学園大学経済学部教授)

(北海道大学名誉教授)

演題 泊原発敷地内の活断層問題と原子力規制委員会の問題点
9月10日(土)午後1時30分
労働福祉センター大ホール
(末広町1丁目15番7号)

資料代 300円

※講演会終了後、脱原発をすすめる会の総会が行われます。

苫小牧九条の会が映画を上映

ふしぎなクニの憲法

☆ 9月24日(土)
☆ 午後1時30分会場
☆ 午後2時開演
☆ アイビープラザホール
☆ 入場料 千円(学生は無料)
この映画は、憲法論議が政治によって進められるのではなく、主権者である私たち国民の間に広がることを願ってつくられたものです。一般市民や識者へのインタビューを通して憲法について考えたドキュメンタリー映画です。

ドキュメンタリー映画
不思議なクニの憲法
声をあげる私たち

監督 松井久子

声を出そう
声をあげる 私たち

紹介

中国語

会話サークル

- 毎週木曜日 午後6時
- アイビープラザ
- 会費 月1000円
- 代表が会員の山口晃さんです。関心のある方、興味のある方、参加してみませんか。いつでも入会できるそうです。
- 問い合わせは山口さん (☎) 72-13924

編集後記

矢継ぎ早に襲ってきた台風でしたが、被害はありませんでした。そして、まだまだ暑いこの陽気です、体をご自愛して元気にお過ごし下さい。

中国旅行団もたくさんのお土産を持って帰国しました、どんな学びがあったのか、聞くのが楽しみです。今回も4ページで盛りだくさんの内容になりました。(蔦保 記)

池野さんの証言が新聞に掲載

8月10日の「平和のついで」で戦争体験証言をした池野京子さんのお話が北海道新聞の「日胆と戦争シリーズ」に掲載されました。転載して紹介致します。

「自分ができると」「71年後の告白」

71回目となる「終戦の日」の15日に合わせ、平和の尊さを伝えようと動き出した戦争体験者がいる。苫小牧市泉町の池野京子さん(78)。終戦直後の旧満州(現中国東北地方)で日本人女性の集団自決の現場に居合わせたのが、偶然生き延びた。今月10日、公の場で初めて体験を語り、「戦争が二度と起きないように、残りの人生で自分ができることをしていきたい」と力を込めた。(細川智子)

集団自決を体験 池野京子さん

「戦争は本当につらいこと。忘れようとしても8月になると思い出します」
苫小牧市内で市民団体が開いた10日の集会。池野さんは約80人を前に、7歳で向き合った悲劇を静かに振り返った。

釧路生まれ。4歳の時、父が満鉄(南満州鉄道)で働くため奉天(現・瀋陽)に渡った。1945年(昭和20年)初め、同じ旧満州の敦化にいた伯母一家の元へ、5歳下の妹と疎開した。伯父が日満パルプ製造敦化工場に勤めていた。

悲劇はそこで起きた。日中友好協会苫小牧支部によると、8月9日に旧満州に侵攻した旧ソ連軍が同22日、敦化工場に進撃。社宅にいた男性全員を移動させ、女性と子どもを独身寮に監禁した。旧ソ連兵は数日にわたって女性への性的暴行を繰り返した。幼い池野さんには起きてい

ることが理解できなかった。監禁された同じ部屋に38人。やがて、ある女性が「このまま生きてるのは恥だ」と言い、白い粉の入った小瓶を取り出した。青酸カリだった。大人一人一人の手のひらに粉が載せられていった。

3口ほどなめた妹は「クッククック」と音を立て、亡くなった。周りの人がバタバタと倒れていく中、池野さんは「自分だけ取り残されるのは嫌」と焦り、伯母に「早く私にもなめさせて」とせがんだ。ひとなめすると急に眠くなり、腰が痛くなつて気を失った。直前に「天皇陛下、万歳」と両手を上げた記憶がある。しばらくして目が覚めた。致死量に達しなかった伯母、いとこを含め、この部屋で生き残ったのは11人。別の部屋では女性たちが首筋や手首を切つて自決し、血の海が広がっていた。

その後、池野さんは伯母ら

安保法反対の若者に触発

と工場で暮らした。発疹チフスで生死の境をさまよったが、46年8月に引き揚げ、先に釧路に戻っていた母と再会。父は終戦直前に奉天で病死していた。19歳で苫小牧に移り、結婚して3人の男の子に恵まれた。

幼少期のつらい体験は心の奥底にずっと押し込めてきた。還暦を過ぎてから周囲には少しずつ伝えてきたが、今回初めて公の場で語ったのは理由がある。昨年の安全保障関連法の審議を巡り、声を上げる若者の姿に背中を押されたからだ。

集会の結びに「幼かった私を感じたつらさは恐らく、大人の半分ほど。だから今ようやく人前で話せるようになったのかな」とほほ笑んだ池野さん。

「戦争は絶対だめ。もう誰にもこんな思いはさせたくない」と思いを新たにしている。



7歳で体験した戦争の悲劇について語る池野京子さん
10日、苫小牧市内